

令和 3 年度

研 修 集 録



秋田県立羽後高等学校

目 次

巻頭言

「Life can only be understood backwards; but it must be lived forwards.」

(人生は後ろ向きにしか理解できないが、人は前を向いてしか生きられない)

・・・校長 菅原 敏紀

目 次

1 指導主事学校訪問

・実施要項	6
・学習指導案	理科：桑原 知広 7
・学習指導案	地歴公民科：篠木 聡 9
・学習指導案	保健体育科：松井 智彦 11
・各協議会記録	理科・地歴公民科・保健体育科 13
・全体会記録	19

2 年次研修・主任研修

・「教職5年目研修」	松井 智彦 24
・「中堅教諭等資質向上研修」	小松 拓史 25
・「高等学校新任学年主任研修」	小川 卓也 27
・「高等学校新任学年主任研修」	高階 和也 28

3 ICTを活用した授業づくり

・・・研修図書情報部 32

ICTを活用した授業の実践	34～42
---------------	-------

編集後記

Life can only be understood backwards; but it must be lived forwards.

(人生は後ろ向きにしか理解できないが、人は前を向いてしか生きられない)

校長 菅原 敏紀

令和3年度研修収録の発刊に当たり、一言ご挨拶いたします。題名は、実存哲学の祖と言われるセーレン・キルケゴールの言葉からとりました。「人生」を教員に、「生きられない」を「教えられない」と読み換える時、現在の教員の置かれている状況を、これほど適確に表現した言葉は、そう見当たらないと常日頃感じているからです。

『論語』の述而編に「述べて作らず」という有名なくだりがあります。全ての答えは先人の言動に尽くされているのだから、それを述べ伝えるだけで、新たなものを加えないという意味に一般的には解釈されています。確かに、社会や経済が成長・拡大することが自明であった時代であれば優れた先人の知識によって容易に正解にたどり着くことはできたでしょう。学校も知識・技能の伝達場（まさにラテン語でいうところの schola）として機能していれば良かったのです。しかしながら、社会や経済が確実に後退と縮小に向かっている現在、人類はこれまでに体験したことのない様々な課題、言うなれば正解の見えない数々の障壁に直面しています。それらが学校で得た知識のみで解決できない難問であることは言を俟ちませんし、十年一日のごとく、従来の方法のままで既存の知識を教えていたのでは、学校が社会に対して十分な責任を果たしていることにもなりません。

その意味で、今年度から一人一台端末、電子黒板の導入による授業のICT化がスタートしたことは極めて象徴的な出来事と言えます。私たち教員は、これまで人類が営々と築いてきた知の遺産を、予測不可能な社会においても役立てられるように、新たな形で生徒に提示し、その上で正解の見えない答えについて、主体的に考えさせる役割を社会から任されているのです。以上が《Life can only be understood backwards; but it must be lived forwards.》(人生は後ろ向きにしか理解できないが、人は前を向いてしか生きられない)と題した理由です。

さて、本校では一人一台端末の導入に当たり、九月までに全ての教科においてICTを活用した研究授業を実施しました。本研修収録で、その成果の一端を紹介することにより、多くの方々からご助言をいただき、今後の授業改善につなげられたら幸いです。

また、本校では今年度から、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生諸君が、期間の長短はあるにせよ本校に常駐してくれているおかげもあり、一人一台端末や電子黒板の活用については予想以上にスムーズに進められました。慶應義塾大学長谷部葉子先生を始め、学生諸君のお力添えの賜物と感謝しています。そのようなご支援もあり、十一月に一年生がおこなった慶應義塾大学SFCオンライン研修では、自在に端末を使って大学生たちと意見を交わし合う生徒たちの姿に、確かな成長と変容を実感し、望外の喜びを得ることができました。

加えて、先日実施した授業アンケート及び羽高生意識調査では、各項目の数値が昨年に比べて、0.1～0.5ポイント上がっていました。「授業が楽しい」「ペアワーク、グループワークが楽しい」「chrome book、電子黒板などを利用して、聞くだけでなく見ることによって頭に入りやすい」「chrome bookで目標を立てられるようになってやりやすい」等の生徒の記述回答は、今年度本校が取り組んできた授業改善を、生徒に評価してもらった何よりの証であると考えています。

残念なことに学校現場のごく一部に、一人一台端末や電子黒板等の授業のICT化について、一過性のものであると過小評価する意見もあると仄聞します。しかしながら、本校生が授業に前向

きになったり、ICTスキルの向上とコミュニケーション力の向上につながったりしているのを目の当たりにすると、本校の授業改善は決して間違っていないと自信をもって断言できます。最後になりますが、題名同様キルケゴールの言葉を引用し、筆を擱きたいと思います。《Life is not a problem to be solved, but a reality to be experienced.》（人生とは、解かれるべき問題ではなく、経験されるべき現実である）

指導主事学校訪問 研究授業・協議会

令和 3 年度

指導主事訪問 研究授業・協議会

- 主 題 「生徒が主体的に学びに向かい、達成感を得ることができる授業の実践」
- (1) 本時の目標(ねらい)を電子黒板などに掲示し、教員・生徒で共有する。
 - (2) 授業展開において、1人ひとりに目を配り、ここの生徒に適した「問いかけ」や「発問」を工夫する。
 - (3) クロムブックや振り返りシートなどを活用し、「振り返り」の時間を十分に確保する。

期 日 令和3年 9月22日(水)

日 程

13:25～14:15	5校時	授業参観(全体)
14:15～14:30	SHR・準備	(当該クラス以外の生徒は放課)
14:30～15:20	6校時	研究授業
15:20～15:30	移動・準備	
15:30～16:10	教科協議会	
16:15～16:55	全体会	

助言指導

高校教育課指導主事	丹 啓 記(農業)…理科
高校教育課指導主事	鈴木 亮(地理歴史)…地歴
保健体育科指導主事	佐藤 大 優(保健体育)…保体

授業一覧

教科	科目	単 元	学年組	会 場	授 業 者
理科	地学基礎	5 地震が発生するしくみ	3 A	地学実験室	桑原 知広
地 歴	世界史A	3章一体化に向かう世界 3節ヨーロッパの主権国家体制	2 A	2 A教室	篠木 聡
保 体	体 育	球技 バスケットボール	1 A B	体育館	松井 智彦

教科協議会について 会次第

- ①授業者から感想・課題等
- ②授業参観者から感想・質問・意見等
- ③指導助言

教科	会 場	指 導 助 言 者	司会者	記録者
理科	会 議 室	高校教育課指導主事 丹 啓記	千田 貴広	佐藤 絵里
地 歴	被 服 室	高校教育課指導主事 鈴木 亮	小川 卓也	小野寺裕美子
保 体	図 書 室	保健体育科指導主事 佐藤 大優	高階 和也	佐藤 郁子

理科（地学基礎）学習指導案

実施日時 令和3年9月22日（水） 6校時
対象生徒 3年A組 19名
使用教材 改訂 地学基礎（第一学習社）
場 所 物理地学実験室
授 業 者 桑原 知広

1 単元名

第2章 活動する地球

第2節 火山活動と地震 5. 地震が発生するしくみ

2 単元の目標

- (1) 地球の姿、火山活動、地震について、意欲をもって探究しようとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 紀元前に地球の姿を把握するための考え方に触れる。火山活動と地震は、地球のどのような活動により発生するのか考察する。（思考・判断・表現）
- (3) 世界の火山について各グループでスライドにまとめ発表する。
火山灰を観察する操作を身につける。（観察実験の技能）
- (4) 地球、火山、地震についての基本的な知識を理解する。（知識・理解）

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元は、地球の大きさ、形、内部構造、構成物質など地球の特性を知ることによって、普段生活して見えている当たり前の景色は地球のほんの一部に過ぎないということに気づき、地球に対する興味関心を高めたい。また、地球が活動していることによって火山と地震が起こるしくみを理解し、地球に関する基礎知識を身につける。

(2) 生徒観

3年A組は、ビジネス系11名と生活福祉系8名の計19名在籍している。生徒の実態としては、控えめで大人しく素直な生徒が多い。授業では、受動的で積極的な言動があまり多くなく、自ら進んで活動することはほとんど見られないが、真面目に話や説明を聞いて一生懸命取り組もうとしている。

(3) 指導観

日本は、4枚の大きなプレートが隣接していて、海洋プレートが大陸プレートに沈み込んでいく収束境界である。プレートの運動やマグマの動きによる力が岩石に加わると、岩石にひずみが蓄積され限界に達すると地震が発生する事を考察することができ、地震に関する用語を挙げて理解させたい。

4 指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 観察実験の技能	D 知識・理解
地球の姿、地球の活動により起こる火山と地震のしくみ、について意欲的に探究しようとする。	現代では地球の形と大きさの詳細は測定されているが、紀元前の場合の測定方法について考察し、適切に表現できる。	火山灰の観察では、火山灰から粘土などを取り除き、鉱物と火山ガラスについて観察する操作ができる。	地球が活動していることによって火山と地震が起こるしくみを理解し、知識を身に付けている。

(2) 単元の指導計画

第2節 火山活動と地震

1 火山の分布	・・・ 1 時間	2 火山の地形	・・・ 1 時間
3 火山の噴火と火成岩	・・・ 1 時間	4 火成岩の種類	・・・ 1 時間
5 地震が発生するしくみ	・・・ 1 時間 (本時 1 / 1)		
6 地震の動き	・・・ 1 時間	7 地震が発生する地域	・・・ 1 時間

5 本時の計画

(1) ねらい

地震に関する用語について理解させる。

内陸地殻内地震とプレート境界地震について考察し理解させる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5 分	・地震速報から得られる情報は何か考え、発表する。	発問 地震速報で知りたい情報は何か？ ・生徒からの答えを元に、地震に関する用語について学習する事を伝える。	
展開 35 分	・地震に関する用語について理解する。 ・宿題として後でノートにまとめる。	・地震の用語についてスライドを使って説明する。 ・震源、震央、マグニチュード、震度、震源断層、地震断層、活断層、地震がおこるしくみなど、ノートに書く内容を送信する。	2 つの地震について積極的に考察することができたか (B : ボード)
	本時の目標：地震についての理解を深め、2 つの地震について考察する。 ・兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）と東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の動画を見る。 ・兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）と東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）について、整理する。		
まとめ 10 分	・本時の振り返りとして問題を解く。 ・問題ができた生徒はノートに整理する。	・送信した問題を解いて返信させる。 (ノートや教科書を見てもよい) ・フィードバックする。	正しい答えを導くことができたか (D : 課題提出)

評価の観点：A 関心・意欲・態度 B 思考・判断・表現 C 観察実験の技能 D 知識・理解

地理歴史科 (世界史A) 学習指導案

実施日時 令和3年9月22日(水) 6校時
 対象生徒 2年A組 21名
 使用教材 世界史A新訂版(実教出版)
 場 所 2A教室
 授 業 者 篠木 聡

1 単元名

第3章 一体化に向かう世界 第3節 ヨーロッパの主権国家体制
 1 スペインとオランダの繁栄

2 単元の目標

- (1) 主権国家体制の成立が見られる近世ヨーロッパについて、他地域の情勢と絡めながら意欲的に追究できる。 【 関心・意欲・態度 】
- (2) 主権国家体制の成立に関わる歴史的諸事象について、その因果関係を多角的な観点から捉え、考察や表現ができる。 【 思考・判断・表現 】
- (3) 主権国家体制の成立の理解を深める上で、地図や王家の系図等を効果的に活用することができる。 【 資料活用 の技能】
- (4) 近世ヨーロッパの歴史的諸事象について、因果関係を理解し、基礎事項について知識を身に付けている。 【 知識・理解】

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元では、西欧世界が大きく変化していく近世を学習する。興味関心を高め、理由や根拠を伴った思考や発言を引き出す授業を目指したい。

(2) 生徒観

男子11名、女子10名、計21名の生徒である。男子は比較的賑やかで、女子は口数が少なく対照的である。大多数は落ち着いて授業に臨み、発問に対して積極的に反応する生徒もいる。

(3) 指導観

電子黒板やクロムブックで映像を多く用いていることについては、関心や意欲の点で効果的であると受け止めている。一方で、コロナウィルス感染症対策の観点から、協働的な場面を積極的に設定できずにいる。

4 指導と評価の計画(8時間)

(1) 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
主権国家体制の成立が見られる近世ヨーロッパについて、他地域の情勢と絡めながら意欲的に追究している。	主権国家体制の成立に関わる歴史的諸事象について、その因果関係を多角的に考察し表現ができる。	主権国家体制の成立の理解を深める上で、地図や王家の系図等を効果的に活用している。	近世ヨーロッパの歴史的諸事象について、因果関係を伴った理解を試み、基礎事項について知識を身に付けている。

(2) 単元の指導計画

第3節 主権国家体制の成立

- 1 スペインとオランダの繁栄・・・・・・・・・・3時間（本時3／3）
- 2 イギリス革命とフランス・・・・・・・・・・3時間
- 3 三十年戦争と東ヨーロッパの発展・・・・・・1時間
- 4 17～18世紀のヨーロッパの文化・・・・・・1時間

5 本時の計画

- (1) 目 標 スペインから独立したオランダが、17世紀において大繁栄した理由について考察し説明できる。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	○振り返りをしながら、本時の目標や手立てを確認する。 (5分)	・単元の中での本時の位置づけを、振り返りをしながら簡明に説明する。	
展開 30分	【オランダ】 ○オランダ国歌を通して、スペインから独立したことなどを確認する。(6分) ○海外進出をしながら国家が大繁栄する様子についてノートにまとめる。(3分) ○スペインとの違いの中で、オランダ東インド会社に着目する。(2分)	・国歌演奏の動画を見せ、興味関心を引き出す。国歌の歌詞について音読させ、理解を深めさせる。 ・電子黒板にしっかり注目させる。 ・世界で初めての株式会社であるというこだわりをもとに発問する。	
	学習課題：オランダが17世紀において大繁栄した理由を、東インド会社を軸にして考察する。 ○オランダが世界で初めて株式会社をつくった国であり、それがどんな変化をもたらしたかを考察し発表する。(14分) ○17世紀オランダの大繁栄についてイメージを広げる。(5分)	・手立てについて確認(自力で考え、そのあと班でそれを整理し、最後に代表者が発表する)し、じっくり取り掛からせる。 ・日本とオランダの歴史に目を向け確認させる。 ・具体例として、『チューリップ・フィーバー 肖像画に秘めた愛』を紹介しイメージを膨らませる。	・オランダが17世紀に大繁栄した因果関係について、多角的に考察し表現を試みている。 【B:発表・観察】
整理 15分	○振り返りの質問に答える。 ○学んだことをノートに文章でまとめる。 ○同様に、疑問点や気付いたことについて記入する。	・本時の目標を確認する。	

評価の観点 A：関心・意欲・態度

B：思考・判断・表現

C：技能

D：知識・理解

保健体育科（体育）学習指導案

実施日時 令和3年9月22日（水）6校時

対象生徒 1年A組・B組 24名

場 所 体 育 館

授 業 者 高階和也 松井智彦

1 単元名

体育 E球技（バスケットボール・ゴール型）

2 単元の目標

- （1）安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができるようにする。
- （2）自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- （3）技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。

3 単元と生徒

（1）単元観

バスケットボールは、パスやドリブルでボールを進めてシュートを狙ったり、相手の攻撃を防いだりして 攻防を展開するところを楽しむがある運動である。また、空間を埋めるなどのボールを持たないときの動きが作戦行動を左右する大きな要素になっている。ボール操作が苦手な生徒でも、ボールを持たないときの動きに着目することで、チームプレーに積極的に貢献できることを体験させ、他のゴール型球技にもつながる動きの基礎を養わせたい。

（2）生徒観

体育授業ではA・B組合同で行われている。男子12名、女子12名で、全員が非常に素直な生徒たちである。男女ともに運動能力は決して高いとはいえないが、持ち前の素直さで与えられたことに対して積極的に行い、活発に授業に取り組んでいる。

（3）指導観

入学年次であるので、中学校で学んだ知識や技能を生かし球技の基本となる動きの習得を目指す。また、その次の年次以降につながるように安定したボール操作やボール持った時、持たない時の動きで空間を埋めるなどの連携した動きができるようにさせたい。

4 指導と評価の計画

（1）単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	D 技能	C 知識・理解
①勝敗を競う楽しさや喜びを味わおうとしている。 ②ICTを活用して仲間と連携した動きとなるように取り組もうとしている。	これまで学習した知識や技能を活用して、チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方など考えたことを書き出したり、相手に伝えようとしている。	①安定したボール操作で味方が操作しやすいパスを送ることができる。 ②人のいない場所に移動したりして空間を作り出すことができる。	①バスケットボールの特性について具体例をあげようとしている。 ②ルールを理解しゲームの運営について伝えたり書き出そうとしている。

(2) 単元の指導計画 E 球技 (バスケットボール・ゴール型) 全 10 時間

1～4 時間 安定したパスワークおよび空間を作りだすなどの連携した動き (本時 3 / 4)

5～6 時間 簡易ゲームにおける安定したパスワークおよび空間を作りだすなどの連携した動き

7～10 時間 作戦を活かした攻防の展開 (簡易ゲーム)

5 本時の計画

(1) ねらい

ICT を活用して個人やチームの動きを確認し、仲間と連携した動きとなるように取り組むことができる。(関心・意欲・態度)

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点		評価の観点
導入 10 分	・集合・整列・挨拶 ・出欠確認、健康観察 ・本時の授業の流れ、ねらいを確認する ・W-UP、準備体操 ・スクエアパスを行う(復習)	・クラスごとに整列する。 ・クロムブックで授業の流れ、ねらいを確認する。 ・前時の復習としてスクエアパスを行う。	・生徒の健康観察を行う。 ・クラスルームにスライドをアップロードし、一人一人に確認させる。	
本時の目標：クロムブックで自他の動きを確認し、作戦を立て逃げる人を全員確保できるようになろう！				
展開 3 0 分	・各クラス男女で4グループを作り整列する ・第1回戦ボール鬼 ・第2回戦ボール鬼 ・アップロードされた動画を3分 析し、作戦を立てる。 (ジャムボードに自・他の気づいたことを貼っていく) ・第3回戦ボール鬼	・ボール鬼のルールについてクロムブックで確認する。 ・同じクラスのチームの撮影をする。(A組男子→A組女子が撮影) ・動画はクラスのドライブフォルダにファイル名を変更してアップロードする。 ・攻・防の観点から自グループ・他グループ(同じクラスのグループ)の分析をし捕まえるため・逃げるために必要だと思うことをジャムボードに書いていく。 ・ジャムボードに出した意見を参考にしてリベンジボール鬼を行う。	・ボール鬼の時間は1分間、持ったボールで逃げる人をタッチするように指示する。 ・撮影はステージ上で行わせる。 ・ファイル名変更、アップロード手順がわからない生徒に教える。 ・巡視をしながら、空間を作りだすなどの連携した動きを意識させる。	評価活動 ICTを活用し個人やチームの動きを確認し、仲間と連携した動きとなるように取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】
まとめ 10 分	・フォームを使って本時の振り返りをする	・質問事項に答え、本時の反省や課題点を記述する。	・ボール鬼とバスケットボールのつながりを意識させる。	

理科協議会 15:30～16:10（会議室）

指導者	高校教育課指導主事	丹	啓 記 先生
司 会	千田 貴広		
記 録	佐藤 絵里子		
参加者	富谷 朋子、佐川 昌子、小松 拓史		

1 授業者から感想・課題等

- ・スライドでの説明→板書→グループでの問題演習が普段の流れであるが、今回はICT機器をもっと活用した授業にした。
- ・工夫したことは次の4つである。
 - ①ノートを板書せずに生徒へデータ配信
 - ②地震に関する動画を見せる
 - ③問題も生徒に配信し、各自で解答させる
 - ④ICT機器だけでなく、ホワイトボードを使い、生徒に話し合いをさせ、記録も残す
- ・クラスが普段よりも明るい雰囲気での授業がやりやすかった。
- ・予想以上に生徒から良い意見が上がった。

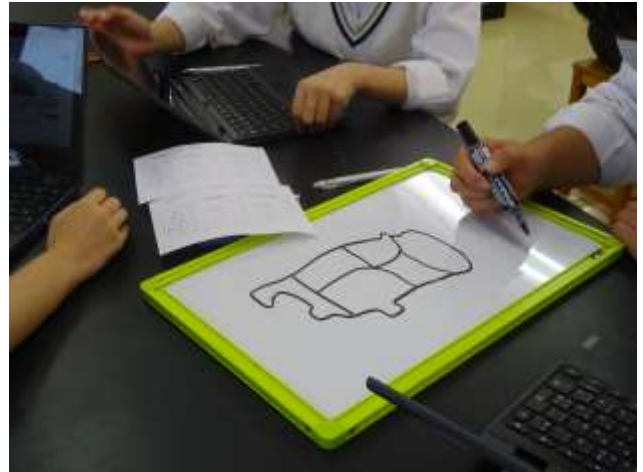
2 授業参観者から感想・質問・意見等

- ・配信された問題を解くために、生徒自ら教科書等で調べて解答している姿に驚いた。
- ・家庭科でも防災について学ばせている。同じ時期に扱い教科を横断した指導ができれば。
- ・生徒たちが熱中して問題を解いていた。
- ・生徒の話し合い中はまとまるか心配だったが、生徒から良い意見が出て、生徒も達成感があつたのではないかな。
- ・クロムブックを使って調べたり、生徒が自ら取り組もうとしている様子だった。
- ・生徒の意見をまとめる際に、動画を見て感じたことと調べたことを分けさせても良かったのではないかな。
- ・普段、学習の目的が不明瞭な生徒が多いが、ICT機器を活用すると1時間頑張ることができる生徒が増えるようだった。
- ・一か月前課題にあった、本時の目標が触れられていないようだった。
- ・本時のねらいを語句を覚えることなのか、2つの地震を比較することなのかしぼり、明確にした方が良かったのではないかな。
- ・最後の確認問題が、本時の確認というよりもただの調べ学習になっていなかったか。
- ・ホワイトボードに何を書けば良いのかわかりにくかった。
- ・生徒のグループ分けがとても良い分け方だった。
- ・ホワイトボードに書くことをもう少ししぼったり、少しヒントを与えたりした方が生徒が取り組みやすかったのではないかな。
- ・教科横断的な指導については、他教科がいつどのようなことを扱っているか知ることが必要となる。

3 指導助言

- ・一か月前課題については学校の課題として捉え、よく取り組んでもらった。
- ・「問いかけ」や「発問」の工夫については次のことを大切にすると良い。
 - ①発問をした後の教室の風景をイメージする
 - ②生徒がどのように考えるかをイメージする

- ③生徒がどのような反応をするか考えながら練る
- ④うまくいかなかった発問も次につなげる
- ・ 本時のねらいと振り返りはつながりのあるものだと思う。今回の授業では本時の目標と確認問題がそれに当たる。生徒に何をさせるのか念頭に考える。
- ・ 教科横断的指導については、“教科横断”というキーワードベースではなく、生徒に身に付けさせたい資質・能力ベースで進めていくとよい。



地歴公民科協議会 15 : 35 ~ 16 : 10 (被服室)

指導者	高校教育課指導主事	鈴木	亮 先生
司 会	小川	卓也	
記 録	小野寺裕美子		
参加者	高橋 潤、岡本 優		

1 授業者から感想・課題等

- ・生徒の反応が良く、楽しく授業を進めることができた。
- ・「革命」に焦点を当てたかったが、当てきれなかったように感じている。
- ・株式会社の仕組みについて理解できていなかった生徒もいたようだ。現代社会での既習事項ではあったが、事前に生徒の知識・理解の確認をする必要があったように思った。
- ・生徒の発言を多く得ることができたが、一方、その答えへのフォローが少し足りなかったように感じた。

2 授業参観者から感想・質問・意見等

- ・前時の振り返りから本時の学習へ入るつながりが良かった。
- ・書く時間、考える時間、発表の時間をそれぞれもう少し確保した方が良かった。
- ・時間の余裕があれば、発表の際に声が小さい生徒にも指導してほしかった。
- ・問いかけに対して違った解釈をしている生徒もいた。その生徒へのフォローが必要だと感じた。
- ・知識を詰め込むだけの授業でなく、考える授業だったのが良かった。
- ・電子黒板を有効に活用していた。
- ・元気のいい生徒の発言によって授業が進んでしまったので、おとなしい生徒をどのように活かしていくかが課題だと感じた。

<電子黒板の使用について情報交換>

- ・資料を提示する授業には有効に活用できる。
- ・書き取りや計算、英単語などは書く回数を減らさない指導をしていきたい。
- ・グループ活動などにおいては、Jamboardを利用すると、意見交換の際も移動しなくて済む。
- ・電子黒板と通常の黒板をバランスよく使用する工夫が必要である。

3 指導助言

- ・本校生徒の実態に合った授業でよかった。
- ・世界史の授業を進めるためには時間軸と空間軸を考えさせる必要がある。その点、スライドを利用しながらテンポのよい分かりやすい授業だった。
- ・生徒の知識を現代社会→世界史→政治経済のように3年かけて積み重ねていってほしい。
- ・新学習指導要領への移行に伴い、評価規準も変わる。指導と評価の一体化についての準備を年度内からスタートしていく必要がある。



保健体育科協議会 15:30～16:10 (図書室)

指導者	保健体育科指導主事	佐藤 大 優 先生
司 会	高階 和也	
記 録	佐藤 郁子	
参加者	照井 雅孝、高橋 恵、佐藤美沙都	

1 授業者から感想・課題等

- ・タブレットの利点（映像で自分と他者の動きを比較する、Jamboard で積極的に発言しない生徒も意見を出しやすい）を考え、ICT の活用挑戦した。ICT 取り組みの礎になればと考える。
- ・時間的に指導案通りにできなかったのは反省点と言える。

2 授業参観者から感想・質問・意見等

- ・体育の授業で ICT を使うという発想が新鮮だった。クロムブックを開くタイミングが適度な休憩になっていたように感じる。
- ・クラスの雰囲気がいい。信頼関係ができているので、生徒が先生の指示をきちんと聞く態度になっていると感じた。
- ・座学で見ている時とは違う（生徒の）表情を見られた。動画で自分の姿を見られて効果的だと思う。
 - Q1、最終的にボール鬼がバスケットボールにどう活かされるのか生徒はわかっているのか？
 - Q2、アップロードされた動画を見て分析する際に着目点の指示がなかった。観点のサポートはどのようにされているのか？
 - Q3、一つの授業の流れとして「動く、止める」が混在している点はどうなのか？
- ・導入からタブレット、ホワイトボードを使っていることや、生徒が動画を撮影し、共有しているのが良かった。
- ・ただ体を動かすのではなく”考える”体育。生徒の意見をスムーズに出させ、それを共有するという、タブレットの利点を十分に活かしていた。
- ・振り返りまで出来なかったのは残念だがそれを宿題にしていたのは良かった。真似したい授業だった。

<Q1～Q3 への回答>

- Q1、生徒には「ゴール」を教えていない。「ボールを持っている時、いない時、どう動くのか」という初歩の初歩の段階なので。
- Q2、Jamboard でキーワードを与えなかったのは教師側の誘導になるのを避けたかったため。生徒の気づきを活かしたい。
- Q3、授業の流れの「動く、止める」についてはアドリブ。生徒の様子を見ながらその場で決めている。今回は生徒の息が上がってきた頃合いでクロムブックに移行した。
- ・動く、見る、支える、などスポーツの様々な側面があるがタブレットを使うことでどういう価値が得られるのか、スポーツにどう貢献ができるのか。将来的に見て、1年生の授業は実験的な意味もある。

3 指導助言

- ・こういった形で ICT の活用挑戦されるのか興味があった。今の段階では挑戦することとはとても大事。松井先生は時間配分を失敗と言ったがこれが成果になると思う。

- ・高校1年生で求められる「安定したボールの操作」と「空間を作り出す動き」についてボール鬼はぴったりだった。（女子は安定したボール操作ができるように修練の段階か）
- ・最終的にバスケットボールにつながることを意識せざるを得ない状況を作ってしまうのも一つ。
（例えば男子にはバスケットコート半面を意識させる位置にボールを立てるとか）
- ・マンツーマンディフェンスにつながりやすい良い取り組みだと思った。＊バスケットコートのラインが昔のままなので改善した方が良い。
- ・先生から生徒への言葉掛けが多く、信頼関係が出来ている温かい授業だと思った。
- ・ICTを活用することが目的とならないように。様々な場面で効果的に活用するのが目的。
- ・部活動での活用を期待する。

全体会 16:15～16:45（会議室）

進 行 教頭 田中 英人

1 校長挨拶（指導者紹介）

高校教育課指導主事	丹	啓	記	先生（農 業）
高校教育課指導主事	鈴	木	亮	先生（地理歴史）
保健体育科指導主事	佐	藤	大 優	先生（保健体育）

2 教科協議会報告

別紙の各教科の協議会報告を参照

3 指導助言

【佐藤指導主事】

きれいな学校であり、生徒を大事にしている。クロムブックに向き合う生徒の表情が良かった。主体性に繋がっている。

①学校体育部活動について

- ・安全安心を第一に体力の向上を図る取り組みをしてほしい。
- ・コロナの影響で制約があり達成感を味わう状況が十分でないが、仲間と挑戦し多くのものを学べる環境をつくってほしい。

②健康教育食育

- ・引き続き感染症対策をお願いしたい。

③学校安全

- ・各校危機管理マニュアルを作成して対応しているが、全国的には毎年のように事件、事故等発生しているので、学校安全の意識を高めてほしい。
- ・羽後高校は羽後町の避難所に設定されているので、避難所設営マニュアルの具体化や避難方法について確認をしてほしい。

【鈴木指導主事】

①表簿閲覧

- ・指導要録が丁寧に記載・作成され、個人個人がよく分かるものになっている。
- ・他の表簿も丁寧であった。

②生徒指導特別支援

- ・学校の雰囲気が良い、生徒がいきいきしている。授業でも生徒が熱心で、先生が目が生徒をしっかり見ている。生徒が先生を信頼しているという印象である。さまざまな課題を抱えた生徒がいることも事実だと思うが、地域との交流などを通して成長している。しかしながら生徒が社会で生きていけるかという不安を持って指導しているだろう。段階的に焦らず指導してほしい。
- ・県内で368名発達障害の生徒が公立高校にいる。LDやADHD、自閉症、RAD愛着障害（5歳未満までに親からの愛着が受けられない）などがある。特別支援の症状はさまざまあり、個別の対応が必要である。日々アップデートしてほしい。保護者対応も苦労していることと思う。先生方で分かっているつもり、にならないよう共有の仕方を工夫して一丸となり地域対応していただきたい。

【丹指導主事】

1ヶ月前課題についてしっかり対応していた。5月からさらに生徒がいきいきしていた。

① ICT活用

- ・クロムブックの持ち帰りについて、家庭のW i - F i 環境が壁となっている。持ち帰りを積極的にしてほしい。
- ・W i - F i 環境がなくてもオフラインでできることを考えて実施することもできる。
(学校でダウンロード→家庭で実施→学校で提出) 分散登校などでもできる。

②地域連携

- ・羽後高校は地域の期待を背負っている。中学生へのアピールを引き続き行ってほしい。
- ・社会に出てからのことを味わわせる体験をぜひ授業などでも実施してほしい。
- ・自分で学ぶ習慣を身に付けることが大切で、これが主体性の育みにつながる。
- ・地域でどういう人材が求められているかを先生方も知ることが大切で、校内のみならず地域とも対話して連携してほしい。



年次研修

- ・ 教職 5 年目研修 ・ ・ ・ ・ ・ 松井 智彦
- ・ 中堅教諭等資質向上研修 ・ ・ ・ 小松 拓史

主任研修

- ・ 高等学校新任学年主任研修 ・ ・ 小川 卓也
- ・ 高等学校新任学年主任研修 ・ ・ 高階 和也

教職 5 年目研修講座を終えて

保健体育科 教諭 松井 智彦

(1) はじめに

教職 5 年目研修講座を受講するにあたり、授業の指導力向上をテーマに臨むことにした。また、教科指導のみならず、学級経営や生徒指導、発達障害を抱えている生徒への支援について理解を深めることもねらいのひとつである。初任者研修から学んだこと、経験・実践したことを振り返るとともに、さらなる向上のために研修を受けることができた。研修内容などについて大まかに紹介し、研修で感じたこと・学んだことについて触れていくことにする。

(2) 高等学校教職 5 年目研修講座について

高等学校教職 5 年目研修講座はⅠ・Ⅱ期にわたり実施された。Ⅰ期では「教育相談と人間関係づくり」、「学校組織の一員としてマネジメントの視点」、「生徒の実態を踏まえた授業改善」について講義、協議、演習を行った。講座では初任者研修の講座で学んだ内容を復習するような内容であったが、初任者研修の時とは違い実際の教育場面をイメージしながら聞くことができた。改めて教育相談やカウンセリングにおいて必要な技法や大切なことを学ぶことができた。また、学校プレゼンテーションシートを作成したが、学校組織の一員として共通の目標を持つことの重要性や常日頃から学校の実態把握や課題点など考える必要性を改めて感じた。

Ⅱ期では新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンラインでの研修となった。講座では「発達障害のある生徒の理解と支援～自己肯定感の低下に配慮した関わり～」を受講した。オンライン上での研修であったが、発達障害を抱えている生徒の実態を改めて学び、発達障害を抱えている生徒が学校生活上で困ることなどを知り、さらに具体的な支援の方法などの知識を得ることができた。

教科研修ではⅠ期に設定した課題テーマに基づいた授業を実践し、自己研修でのレポート作成をした。自ら掲げたテーマは「ICTを活用した授業展開についての工夫と実践上の課題」であり、課題点として「クロムブックを授業の中で積極的に活用し、思考を深めるためのツールとした授業展開を図る」という設定をし、成果や課題点を挙げた。

○成果

・保健授業においては普段から資料の提示やパワーポイントなど電子黒板を使った授業は行っていたが、オンライン上でクラスルームを活用した授業実践は初めてだった。クラスルーム内で資料の配付を行うことで、時間の短縮やペーパーレス化につなげることができた。時間の短縮により生徒の考える時間を確保することもできた。また、ジャムボードを活用することで普段あまり発言をする機会の少ない生徒も積極的に意見を書くことができ、クラス全体で多くの意見が共有されるようになり、生徒の思考を深めることにつながったように感じている。

▲課題

・授業の実践ではジャムボードを 3 回使用する場面を設定したが、キーボードでの打ち込みに慣れていない生徒もあり予想以上に時間がかかってしまった。思考を深めるという点において作業する場面設定を減らすべきであった。ICTを活用する場面において発問や活用する場面設定の精選を図り、より効果的に活用できるタイミングを図ることの重要性を感じた。

・ICTを効果的に活用した授業展開においてジャムボードだけでなく活用できるアプリは他にもあるので、生徒の思考を深めるツールとして積極的に他アプリの使用を図っていきたい。また、ICTをより効果的に活用するためのアイデアや発問の工夫など日々研究していきたい。

中堅教諭等資質向上研修

国語科 教諭 小松 拓史

1. はじめに

この二年間、新型コロナウイルス感染症の流行による影響もあり、予定通りに行事を消化することが難しかった。そんな中、今年度の中堅教諭等資質向上研修も中止になった講座があったものの、貴重な経験を積むことができた。研修を通して感じたことや学んだことを振り返っていききたい。

2. 校外研修

(1) 総合教育センター研修

総合教育センターでの研修は計4日間行われた。Ⅲ期の研修は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止となったが、多くのことを学んだ研修であった。

特に印象に残っているのは「教育活動全体を通じたキャリア教育」である。自身の教科を学ぶ意義はもちろん、他教科を学ぶ意義についても考えていくことの大切さを学んだ。また、教科間の隔たりだけでなく、校種間の隔たりを無くしたキャリア教育の重要性も学んだ。他校のキャリア教育方針を参考にしながら、本校がどのようにキャリア教育を実践していくのか、中堅教諭としてしっかりと考えなければならない。

(2) 高校教育課研修

① 授業研修

授業研修は、9月2日(火)に秋田県立秋田高等学校の1年生を対象に実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、中止となってしまった。授業を行うことはできなかったが、指導主事の先生に指導案の添削を何度もしていただき、しっかりと授業計画を作成することができた。また、他の先生方の指導案も見ることができ、今後の自身の授業の参考にすることができた。

② 選択研修

選択研修では、羽後町立図書館で研修をさせていただいた。研修期間は7月28日(水)、29日(木)、31日(土)の3日間の予定であったが、31日(土)は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため図書館が休館となり、2日間の実施となった。

図書館での研修では、図書PRのためのPOPづくりを行った。来館した方々が「この本を読みたい」と思うよう、考えながら作ることができた。図書館内にはさまざまな利用者層やニーズに合わせた工夫がされており、職員の方々の、多くの方に来館してほしいという思いを強く感じた。

また、研修後には羽後町立図書館の沼澤館長に来校していただき、絵本の読み聞かせについての特別授業をしていただいた。私も中・高生向けの絵本の読み聞かせを実践したが、聞き手のことを考えて絵本の読み方を工夫することは、授業計画にも通じる部分があると感じた。教職以外の職業に触れた経験を、今後の教員生活に生かしていきたい。

3. 校内研修

校内研修では、多くの先生方からご指導いただいた。各分掌の働きや組織としての運営について学ぶことができ、貴重な時間となった。お忙しい中時間を割いてご指導いただいた先生方に心から感謝したい。

4. 特定課題研究

特定課題研究では、2019年度から携わっている総合的な探究の時間「羽後学」の取り組みについてまとめた。

総合的な探究の時間「羽後学」は2016年度から実施しているが、2019年度からNPO法人や慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SF C）の大学生と連携して取り組む現在の形となっている。NPOやSF Cとの連携は本校としては初めての試みで、担当している私自身や他の教員も手探りの部分が多かった。試行錯誤の中3年目を迎えた2021年度、羽後学がどのような成果を上げることができたかをまとめ、次年度以降の取り組みに生かしていきたいと考え、今回の研究テーマとした。

羽後学を通しての収穫は、何より生徒が主体的に活動することができるようになったこと、大勢の前で自信を持って自分たちの考えを発表できるようになったことである。地域に対する自分の思いが形になっていくことに、生徒も楽しさを感じながら学んでいる。羽後学を通して生徒の成長が見られたことで、最初は新しい試みの羽後学に戸惑いが多かった先生方も積極的に協力してくれるようになり、活動も軌道に乗せることができたと思う。

今後の課題は、生徒数減少に伴い多岐にわたる活動が難しいことである。羽後学には地域貢献の側面もあるが、大切なのは生徒の学びである。生徒の負担にならないよう配慮しながら、羽後学の活動を地道に深めていきたいと考えている。

5. おわりに

研修期間中、これまでの自身の取り組みや経験を振り返るとともに、今後どのように学校運営に携わっていくべきかを考えることができた。また、研修を通して他校の先生方の取り組みや考えを聞くことができ、新たな発見をすることができた。

時代の流れに伴い、教育現場で求められることも少しずつ変化しているように感じる。これまでの経験を生かしつつ、新しいものの見方や考え方を取り入れながら学校運営に携わっていきたい。同時に、中堅教諭として後輩教員の力になれるよう振る舞っていききたい。

最後になりましたが、今回の研修に携わってくださったすべての方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

高等学校新任学年主任研修講座に参加して

教諭 小川 卓也

1. 概要

日時 I 期：令和3年5月14日（金）、II 期：令和3年6月24日（木）

場所 秋田県総合教育センター

2. 研修内容

I 期

①望まれる学年主任像と学年主任の役割（講義）

学年主任の法的根拠、「共通理解・情報共有」という言葉の落とし穴

②学年経営の実際（実践発表）

五城目高等学校、横手城南高等学校の事例発表

③学年経営における課題への対応（協議）

グループになったの各高校の取り組み紹介、目標達成に向けた課題検討

II 期

①生徒指導における学年主任の役割（講義・演習）

生徒指導とは、いじめの理解と対応、不登校の理解と対応、保護者との連携

②学年経営と組織マネジメントの基礎（講義・演習）

学年主任の職務・実務、学校組織の課題、リーダーシップについて

③思春期の揺れと成長を共に歩む（講話）

脳から見た思春期の特徴、感情の社会化、思春期の課題、教師のストレス

3. 最後に

今年度の研修等で学んだことや考えたことを以下にまとめたいと思う。

I 期では全体を通して非常に具体性のある研修ができた。とくに「学年主任の役割」では、組織として効果的に活動するためには「状況の法則」が参考になることを学び、「共通理解」「情報共有」という言葉の本当の意味を学ぶことができた。

II 期では、生徒や生徒の成長に焦点を当てた研修を受けることができた。たとえば、感情を言葉に表現させることが他者の気持ちを理解できることにつながることやネガティブな感情は、それを共感することで減らすことができることなどである。また、心が折れない子どもを育てるためには、自分の機嫌を自分でとれる人間にする必要があることも学んだ。

多様な価値観の中で様々な生徒や保護者と接する上で、今年度受けた研修内容は非常に参考になるものばかりであった。これからも、生徒とともに歩み、成長するのだという気持ちを忘れずに職務に臨みたい。

高等学校新任学年主任研修講座に参加して

教諭 高階 和也

1. 新任学年主任研修講座Ⅰ

- (1) 期 日 令和3年5月14日(金)
- (2) 場 所 秋田県総合教育センター
- (3) 内 容 <講義>望まれる学年主任像と学年主任の役割
<実践発表>学年経営の実際
<協議>学校経営における課題への対応
- (4) まとめ 学校組織マネジメントには「一般解(いつでもどこでも通用する唯一最善の方法)」と「特殊解(おかれた状況の中でうまくいくやり方)」が存在する。学年主任は、その学年の実体に応じた「特殊解」の模索が求められる。また、人は命令ではなく背景にある状況の理解・納得で動くことを念頭に(状況の法則)、リーダーシップを発揮しなければならない。さらに、「共通理解」や「情報共有」をしている「つもり」にならず、学年部内で解釈にずれがないかを確認することも必要である。その役割が学年主任にある。具体的な業務としては、学年目標、学年部内分掌、年間計画、修学旅行計画、学年会計等の作成があるが、主担当を明確にしたうえで協力体制を作ることが大事である。また、生徒指導上の問題は必ず起こるものだと捉え、小さなことでも管理職と情報共有し、記録を残しておくことが重要である。

2. 新任学年主任研修講座Ⅱ

- (1) 期 日 令和3年6月24日(木)
- (2) 場 所 秋田県総合教育センター
- (3) 内 容 <講義・演習>生徒指導における学年主任の役割
<講義・演習>学校経営と組織マネジメントの基礎
<講話>思春期の揺れと成長を共に歩む
- (4) まとめ 生徒指導とは、生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すものである。学年主任は、その実現に向けて各学級担任への指導・助言、生徒の実態把握と対策、学級間の連携・調整、他学年との連絡・調整等を担っている。なかでも、いじめや不登校については一層の理解と指導力が求められる。いじめは些細な変化でも1人で判断せず、情報を集めてチームで対応することが重要である。不登校は「居場所づくり」と「絆づくり」を前提に、タイプに応じた対応が求められる。このような生徒を取り巻く諸問題に対応するために、思春期の特徴を脳の機能面から把握し、タイプ別の基本対応をおさえて指導していくことが効果的である。

I C T を活用した 授業実践について

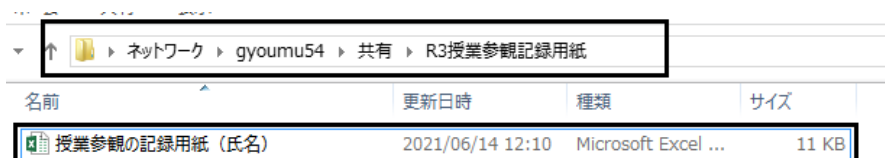
ICT (電子黒板・タブレット) を活用した授業づくりについて

研修図書情報部

ICT (電子黒板・タブレット) を活用した授業づくりについて、今年度は次のように実施します。

1. 各教科における ICT 活用に関する研究授業

- ・ 次の月ごとに各教科で研究授業を実施する。
6 月…国語、音楽 7 月…数学、理科 8 月…英語、商業 9 月…家庭、(保体)
- ・ 実施については、前もって職員朝会時に期日・時間(校時)等を連絡し参観していただく。
- ・ 参観者は実施後、次の共有フォルダ内にある「R3 授業参観記録用紙(氏名)」に良かった点・参考になった点、アドバイス等を入力し、プリントアウトしたものを授業者に渡す。また、同様のものを同じ共有フォルダ内に、各自の名前を入れて保存する。
- ・ この研究授業は、近隣の中学校にも電話にて参加依頼の連絡をする。



授業参観 記録用紙

月	日	曜日	校時	年	組	教科名:
---	---	----	----	---	---	------

授業者:	先生	参観者:
------	----	------

よかった点 参考になった点	
アドバイス等	

授業参観 記録用紙

6月21日（月） 2年 音楽I

よかった点 参考になった点	①鍵盤・音階シートがあり、実物がなくても、その配置についての学習がしやすそうだった。 ②YouTubeの活用により、音楽が実際に聞こえてくると理解が進むと感じた。 ③音楽系のソフト（作曲ソフト？）が太鼓の練習の時に効果的で、生徒が取り組み易そうだった。
アドバイス等	①ぜひ、作曲とかやってみてほしいです！！ ②ふりかえりシートを提出する際に、「手書きだったら、時間に間に合ったのに・・・」という生徒の一言が聞こえました。タイプさせる課題は、そこも考慮しないといけないな、と自分の授業を省みました。 とっても興味深かったです。特に、ふじあやこの秋田音頭が良かったです。音楽アプリにも興味をもてました。ありがとうございました。

7月15日（月） 3年 地学基礎

よかった点 参考になった点	・クロムブックの使い方（スライドをグループごとに編集する方法などちょっと知りたいと思っていたことが分かってありがたかったです）新たな知識が増えました。 ・クロムブック作業のHOW TOをすべて与えられるより、生徒も試行錯誤しながら作業することで身に付くものが大きかったです。 ・生徒たちがリラックスしたムードで授業を受けていて学びやすい空気ができていました。
アドバイス等	・全員が同じことを調べて差異を見るのも面白いですが、グループの中で役割分担を決めてテーマを一つにまとめていくというのもありかと思いました。

ICT（電子黒板・タブレット等）を活用した授業の実践

1 実施科目・学年(クラス) 国語総合 古典 1年 国語科 佐川 昌子
2 活用したICT機器およびソフトウェア 電子黒板・書画カメラ
3 授業概要（どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等） 〔使用目的〕 クラス内の作業進度をそろえるために使用。 〔活用内容〕 電子黒板と書画カメラを活用したのは ・教科書のどの部分を見ればいいのか。 ・どこにマーカーを引けばいいのか。 ・どの問題を今解いているのか。 ・辞書のどこを見ると、求める情報があるのか。 といった単純作業の場面である。 〔活用実践〕 今年度、授業中に指示を出しても、教科書のどこを見ればいいのかわからない生徒が多く、見つけられるよう追加の指示出しや補助をすることで進行が滞ることも多くなった。 それを解消するため、生徒と同じ教材を書画カメラで電子黒板に投影しながら電子黒板用ペンで記入していくことで探しやすく、また探せなくても電子黒板を見れば内容を共有できるようにした。
4 実施上の工夫 ・生徒にしてほしい作業とほぼ同じことを、同じ資料で同時進行するように気をつけた。
5 ①実施後の成果と課題（生徒の反応、改善点、感想等） 〔生徒の反応〕 授業アンケートの際、「同じものが映されていて、わかりやすかった」「やりやすい」といったことが記述されており、ある程度効果があったのではないかと感じた。 〔感想および改善点〕 今やるべきことがわからず、ページをめくって探し続けたり、最初から諦めて作業しなかったりといった生徒が年々増えてきている。以前はクラスの1～2人だったのが、今年度は半分以上という感覚がある。その全員をフォローできないが、そのままでは授業がなりたないという危機感から書画カメラを使用した。生徒にはおおむね好意的に受け止められたようだ。今後は、クラス内の理解度の高い生徒にも、更に学習意欲が高められるようなICT機器の使用について考えていきたい。 ②今後の活用について（展望、予定等） ・国語は副教材が多く、資料も充実しているので、今後もICT機器と紙媒体それぞれの利点を活かせるよう使用機会を考えていきたい。

1 実施科目・学年(クラス)

現代文 2年A組、2年B組

国語科 小 松 拓 史

2 活用したICT機器およびソフトウェア(該当するものすべてを残してください)

電子黒板・クロムブック

ドライブ・フォーム・スライド・その他(ドキュメント・jamboard)

3 授業概要(どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷等)

1校時

	学習活動	指導上の留意点	評 価
導入 (10分)	- 後輩からの相談を読み、回答を作成し、ワークシート(以下WS)に記入する。 - 回答を参考にしながら、「なぜ学ぶのか(1回目)」を考え、WSに記入する。	- 現時点で自分が思うことを書く。 - WSはドキュメントで作成したものを使用させる。	
展開 (40分)	「勉強」の意味について辞書で調べてみる。 - Q:「なぜ勉強するのか」について、大人の回答を予想する。 - 社会人①・②それぞれの役立った教科とその理由を見る。 - 大人の考えを参考にし、「なぜ勉強するのか(2回目)」を考える。 「なぜ勉強するのか」に対する3つの大人の言葉を読み、印象に残った順にランキング付けする。	- 特に1位～3位を考える。 - 社会人①・②の仕事について簡単に説明した後、役立った教科と理由を紹介する。 1位と2位については理由も明記させる。	「なぜ勉強するのか」という問いに対する回答に、自身の考えが変わったり深まったりしたことが示されている。

2校時

	学習活動	指導上の留意点	評 価
導入 (5分)	「なぜ勉強するのか」に対するランキング付けを確認する。		
展開 (35分)	5つの大人の言葉が、誰のどんな言葉での言葉だったかを確認した上で、再度ランキング付けする。 - これまでの内容を踏まえ、「なぜ勉強するのか(3回目)」を考える。 - 職業と教科との関わりについて、ラウンド1・2をグループで話し合い、ラウンド2は jamboard に記入する。 - 学んでいることをどう役立てられるか、あるいはどう役立てたいかを考え、WSに記入する。 - 改めて後輩からの相談に回答する。	5つの大人の言葉について、動画やスライドで紹介し、背景を説明する。 5人一組程度のグループを作り、ラウンド1・2について話し合わせる。 - 自身の学びと、自身の将来を結びつけて考えさせる。 - 導入時の回答から、これまでの内容を踏まえた回答に深まることを目指す。	相談の回答に自身の考えが変わったり深まったりしたことが示されている。
まとめ (10分)	今日の授業の振り返りと感想を forms に記入し、提出する。	教員の期待を述べた後、添付された forms に記入し、提出させる。	

4 実施上の工夫

スライドでは動画も挿入し、生徒が見やすいと感じるよう心掛けた。

Jamboardを利用することで、各グループの意見を他の生徒が見られるようにした。

5 ①実施後の成果と課題(生徒の反応、改善点、感想等)

授業を通して生徒の考えに変化が生まれた。

どの場面でICTを活用すれば理解に役立つのかを考えて扱わないと、ICTを使って楽しいだけの授業になってしまう。

②今後の活用について(展望、予定等)

Google Meetで共有をかけてスライドを提示する形にも取り組んでみたい。

1 実施科目・学年(クラス) 1 年 A B 組 現代社会 地歴公民科 小 川 卓 也
2 活用した I C T 機器およびソフトウェア（該当するものすべてを残してください） ・電子黒板・クロムブック ・フォーム・スライド・その他(ジャムボード)
3 授業概要（どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等） 【電子黒板】 資料集の代わりとして使用。授業で使用する単元の資料をスライドで作成。 スライドには動画を貼り付けることができよう。 【クロムブック】 ①振り返りシートの入力にフォームを使用。 ②生徒に意見を聞き、その結果をグラフにして提示する時にフォームを使用。 ③意見を出させたり、集約するときにジャムボードを使用。 (題材…地方自治、宗教のまとめ)
4 実施上の工夫 黒板、電子黒板、教科書、クロムブックの役割を明確に分けることを心がけた。 生徒にはノートを用意させ、実際に文字を書くことをベースにして授業を組み立てた。 スライドに添付する動画は、ほとんどがニュース。 授業中に、電子黒板を使って学習内容を調べる（調べ方を実演する）ことによって、生徒のインターネット検索能力を向上させたい。
5 ①実施後の成果と課題（生徒の反応、改善点、感想等） 電子黒板で提示する資料は、紙に印刷して配付しているが、カラーで見やすいと評判であった。フォーム等を用いて意見を集めるのは、口頭で述べることを苦手とする生徒にとっては楽だったようである。 ②今後の活用について（展望、予定等） クロムブックを使用して調べ学習をさせると、本当に静かになる。これは仕方なのか？キーを叩く音しか聞こえないのはさみしい。何とかしたい。
6 その他 I C T 機器の使い方については、生徒の飲み込みは本当に早いと感じた。 クロムブックの使い方については、自分自身の勉強が足りていない。

1 実施科目・学年(クラス) 地学基礎 3年 理科 桑原知広
2 活用したICT機器およびソフトウェア(該当するものすべてを残してください) クロムブック・プロジェクタ・パソコン ドライブ・フォーム・スライド・スプレッドシート・ユーチューブ動画
3 授業概要(どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等) 〔1時間の授業の流れ〕 ・スライドを使って説明 準拠教材にある授業スライドを活用した。 ・板書をデータとして配信し、ノートに書かせる。 板書内容をワードで作成した。 ・グループワークの課題を配信し、話し合いながら、グループで答えをボードに書かせる。 準拠教材の問題を修正して配信した。 ・ユーチューブで関係する内容の動画を見せる。
4 実施上の工夫 ・個の活動だけでなく、授業内容の確認をするために、グループワークで話し合いながら課題に取り組ませる活動を取り入れた。
5 ①実施後の成果と課題(生徒の反応、改善点、感想等) ・板書内容を個人のクロムブックに送信することで、全体の板書内容を把握することができ、見えにくいとか見えないということが、無くなったように思う。 ②今後の活用について(展望、予定等) ・今年度の内容を継続していく

1 実施科目・学年(クラス) 生物基礎 2年(A・B組) 理科 佐藤 絵里子
2 活用したICT機器およびソフトウェア(該当するものすべてを残してください) クロムブック・プロジェクタ・パソコン ドライブ・フォーム・スライド・スプレッドシート・その他(パワーポイント)
3 授業概要(どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等) ・パワーポイントで作成したプレゼンテーションで学習内容を解説する。 ・クロムブックでクラスルームを作成した。 ↓ 課題の配付、小テストの配信。 少人数のグループで1つのスライドを編集する。→各グループで発表。 ・インターネットを活用した調べ学習。
4 実施上の工夫 ・生徒同士の学び合いができるよう、調べたことをグループで共有したり、クラス全体に向けて発表させるなどした。
5 ①実施後の成果と課題(生徒の反応、改善点、感想等) ・インターネットを活用した調べ学習では意欲的に調べたり、グループでアドバイスを合ったりと生徒の反応は良いものを感じる。しかし、情報の選別や調べたことをまとめて、わかりやすいように表現する力はまだ身に付いていない。また、意欲的な学びが行われても、必ずしも本人の学力の向上に繋がるわけではないことが分かった。 ② 今後の活用について(展望、予定等) 画像や映像の提示に大変役立っているため、スライドやパワーポイントは今後も活用していこうと考えている。クロムブックを用いて調べたり、スライドを作成したりなどは意欲的に取り組んでいるため、今後も適切な場面で行いたい。

1 実施科目・学年(クラス) コミュニケーション英語Ⅱ 2年 英語科 高 橋 潤
2 活用したICT機器およびソフトウェア 電子黒板・クロムブック スライド・その他(Google 翻訳機能)
3 授業概要(どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等) 【発表活動 show & tell (プレゼン)】 <手順・内容> 1 個人で発表するテーマを決め、web上で発表内容を調べさせる。 2 発表原稿(日本語)を作成させる。 3 完成した日本語原稿をGoogleの翻訳機能で英文に変換する。 4 英語の誤訳を指摘し、翻訳に使う日本語を改善させる。(数回繰り返す) 5 発表原稿を基にしてスライドを作成する。(原稿を調整する場合あり) 6 発表原稿をGoogle翻訳機能の読み上げ機能を使って発音の確認と音読練習をする。 7 発表会の審査は教師とALT、視聴する生徒にも簡易な審査をしてもらう。 8 審査結果を点数化して「評価」する。
4 実施上の工夫 ・独力で「調べる」「考える」ようにさせる。安易に答えやヒントは与えない。 ・他の人の発表に注目させる(相手の話をよく聞く)ため、生徒にも簡易な「審査」をさせる。 ・視聴者の関心を引きつける効果的な「伝え方」を考えさせる。 (適切な情報量にさせる)
5 ①実施後の成果と課題(生徒の反応、改善点、感想等) ・依存心が強かったり、無計画な生徒には「独力」で行う活動にだいぶ悩んでいたが、他の生徒の発表(結果)を見聞きすることで良い刺激(反省材料)になったと思われる。 ・個人の能力差があり、仕上がりまでの時間に大きな差があった。 ・内容が稚拙、もっと練習回数を増やさないと「伝えるスキル」はアップしないだろう。 ②今後の活用について(展望、予定等) ・Googleの翻訳機能は変換精度が向上しており、読み上げ機能も良好なので自宅での個別学習にも有効性が感じられた。

1 実施科目・学年(クラス) 音楽Ⅱ 2年(2B) 芸術科 佐藤郁子
2 活用したICT機器およびソフトウェア(該当するものすべてを残してください) 電子黒板・クロムブック・パソコン ドライブ、スライド、フォーム、ユーチューブ
3 授業概要(どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等) ・音楽の基礎知識確認 これまでの授業の振り返り クロムブックで鍵盤(音名付き)の図や確認問題の課題を送っておく 同じ画面を電子黒板上に展開し、確認問題の答え合わせ ・応用(自分達で問題を作り隣の席同士で出し合う) ・地域の伝統音楽(西馬音内盆踊りのお囃子・太鼓編) 太鼓のリズム譜を電子黒板上に流し、机をペンで叩いてリズムの復習 ・ユーチューブの参考動画 (秋田の伝統芸能の例) a) 西馬音内盆踊りの動画 b) 由利高校民謡部の演奏の動画 c) 藤あや子とラッパーが秋田音頭でコラボしている動画 伝統芸能を継承していくための努力や意義について考える
4 実施上の工夫 ・スムーズに流れるような段取り。 万が一、機材が使えなくなった場合の「保険」的なB案を持っておくこと。
5 ①実施後の成果と課題(生徒の反応、改善点、感想等) ・6月の段階では音楽という教科に最適な使い方を模索するのに精一杯で、できるだけのことを全部やってみるといってんこ盛り状態になってしまい、ポイントが散漫になった。 ICTの利点: ・実際にキーボードを用意しなくてもクロムブックや電子黒板で音名付きの鍵盤図を表示できる(音の並びの理解に役立つ。ドレミ…の並び方や日本音名との関連に不慣れな生徒の多い本校では基礎の復習が必要不可欠なので) ・簡単にユーチューブの動画を参考にさせられる(以前はCDを何枚も用意したが) ・視覚的にとらえやすい ②今後の活用について(展望、予定等) ・クロムミュージックラボのアプリで楽譜の理解や作曲など、音楽科ならではの使い方ができることを知ったので重宝している。ただ、クロムブックを使っている間は生徒の顔が見えないという致命的な問題があると思う。ICTの最も効果的な使い方を現在も模索中。

1 実施科目・学年(クラス) フードデザイン、生活と福祉、課題研究、子どもの発達と保育（2・3年生活文化） 家庭科 富谷朋子
2 活用したICT機器およびソフトウェア（該当するものすべてを残してください） 電子黒板・クロムブック・書画カメラ・プロジェクタ・パソコン スライド・ドキュメントシート・ジャムボード
3 授業概要（どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等） ○フードデザインデザイン ・調理実習の自他評価（スライド） ・商品開発ポップ制作（スライド）、レシピまとめ（ドキュメントシート） ・食事のマナーや調理実習の動画資料提示（クロムブック・電子黒板） ○生活と福祉 ・国民生活センター、消費者庁HPから資料提示、情報収集 （クロムブック・電子黒板） ・消費者庁スライド活用（パワーポイント） ・高齢者の消費者被害を防ぐために 原因と対策を考える（ジャムボード） ○課題研究 ・長期休業課題の発表会（スライド） 料理の写真も添付して発表 ・被服実習の動画資料提示（クロムブック）、実演（書画カメラ） ○子どもの発達と保育 ・折り紙の折り方、調乳の仕方等の動画資料提示（クロムブック） ・こどもの権利について「世界一大きな授業」から（パワーポイント） ・日本の子どもの睡眠時間について 原因と対策を考える（ジャムボード） ※外部講師の授業 ・パワーポイントによる資料提示（プロジェクタ、パソコン） ・ズームによる講話（電子黒板・クロムブック）
4 実施上の工夫 家庭部会等の研修で教わった先生方の事例、消費者庁HP等の無料で使える教材を活用した。
5 ①実施後の成果と課題（生徒の反応、改善点、感想等） クラスメイトと意見・情報交換する機会が増えた。自分で調べたり、動画を見ながら学習・実習できるようになった。説明だけより、動画・画像があると分かりやすい。 ②今後の活用について（展望、予定等） 資料の提示や調べ学習だけでなく、学び合いや思考を深める学習に活用していきたい。フォームでアンケートを取り、生徒の興味関心や体験を基に授業を進めてみたい。
6 その他 被服室に電子黒板を運ぶのが手間で使わなくなった。クロムブックを持参させても2年生活文化系15名で使うと繋がらなくなるので改善をお願いしたい。

1 実施科目・学年(クラス)

簿 記 (2年ビジネス系)

商業科 照 井 雅 孝

2 活用したICT機器およびソフトウェア

クロムブック・パソコン フォーム

3 授業概要(どのように活用したか手順・内容、活用実践の変遷 等)

- 2 学期最初の授業(8/25)にて、1 学期の学習内容を復習をするために実施した。
- 1 学期に学習した内容についてGoogleフォームを使って仕訳の問題を作成した。
- 解答は4つの選択肢から選んで解答する形式をとり、10問を出題した。
- 作成した「復習テスト①」をクラスルームに課題として投稿し、生徒らに1 学期の学習内容を復習することを伝え、約10～15分間実施した。
- 実施後、フォームと同じ内容のプリントを配布し、さらに右のような解答状況(グラフ)を生徒らに提示しながら、正解の選択肢や仕訳をプリントに書かせた。
- 最後に、今回の授業に対する振り返りシートに意見感想等を入力させた。



4 実施上の工夫

- 課題のフォームに答えるだけでは、知識の定着を図ることができないと考え、フォームと同じ内容のプリントを用いて、正答を確認したこと。

5 ①実施後の成果と課題(生徒の反応、改善点、感想等)

- 振り返りシートの感想等を見てみると、「しっかりと復習をすることができた」と高評価していた。
- 選択肢があるので容易に解答はできるが、しっかりと思考して解答しているのかわからないので、同じ内容のプリントを用いた点は良かったと思う。

②今後の活用について(展望、予定等)

- 課題を作成するのに、特に選択肢を考えるのに時間を要した。復習内容を厳選し問題数を5問程度にして、前時の復習(小テスト)として毎時間実施できればと考えている。

編 集 後 記

令和３年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染防止を図りながらの生活を余儀なくされました。校外での研修・講習会等はほとんどがリモートによるものとなりました。また、このようなコロナ禍での授業や家庭での学習にＩＣＴ機器（タブレット等）は不可欠なものとなり、活用方法等の模索が進んだ年となりました。

令和３年度の「研修集録」については、今年度、本校で行われた研究授業や授業研究協議会、総合教育センター等の研修講座のほかに、今年度から導入されたＩＣＴ機器(クロムブックや電子黒板)を活用した授業づくりについての各教科の取り組みを掲載しました。このＩＣＴ機器の活用については、今後も研究・研修に励まなければならないと考えます。

最後に、この「研修集録」が今後の教育活動の一助となれば幸いです。

令和３年度 研修図書・情報部

令和３年度

研 修 集 録

発 行 令和４年３月

秋田県立羽後高等学校